

# 令和7年度 学校評価結果（北海道美深高等養護学校）

## 1 教職員評価

### (1) 実施日

令和7年11月7日～令和7年11月24日

### (2) 対象者

教職員 86名（提出 81名 / 提出率 94.1%）

### (3) 結果

ア 教職員：令和7年度平均評価点 3.18（令和6年度平均評価点 3.30）

(ア) 評価点は次のとおりとした。

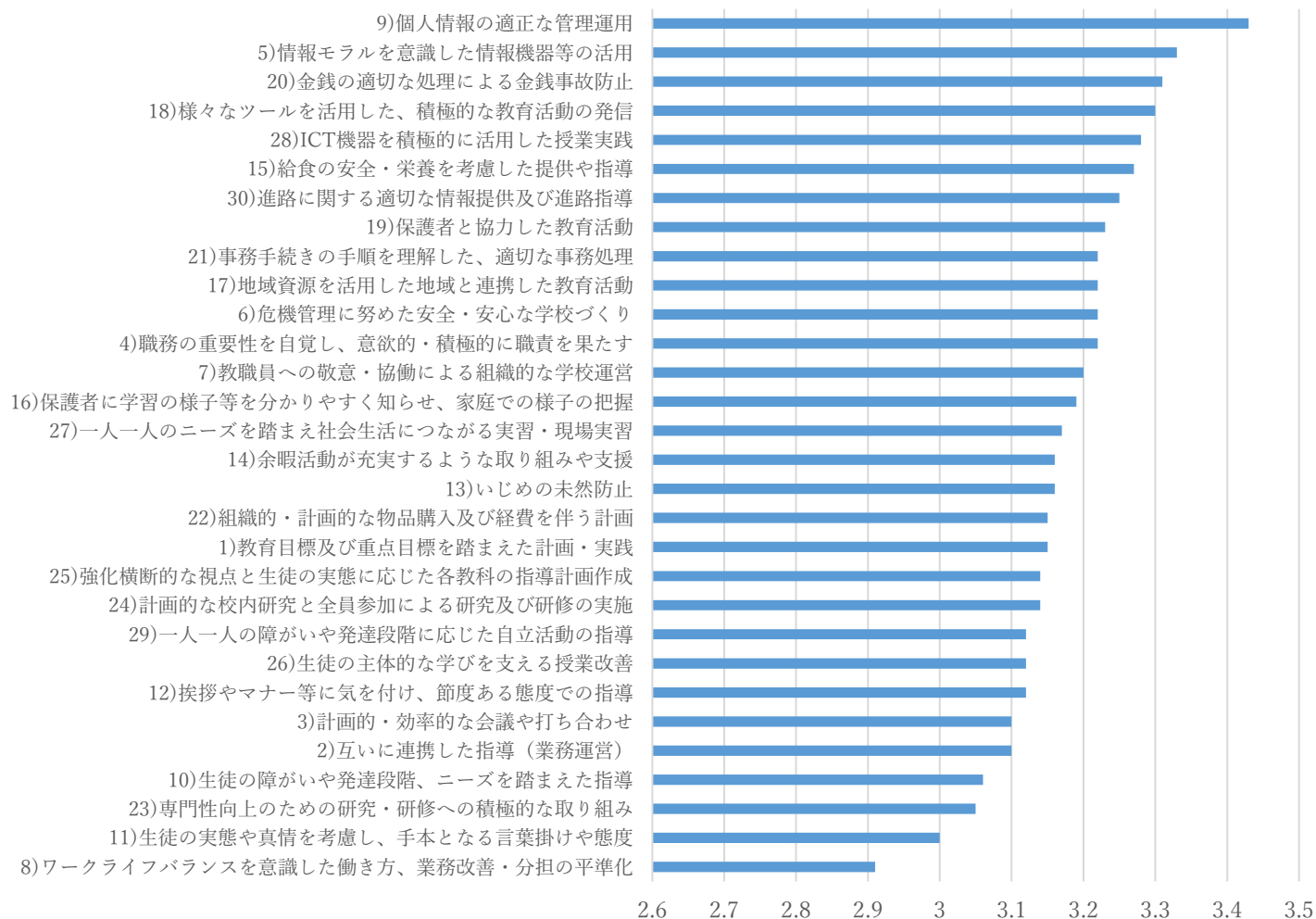
- ・評価4（十分）～4点      評価3（おおむね）～3点
- ・評価2（不十分）～2点      評価1（まったく）～1点

(イ) 図1は30の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

(ウ) 評価基準は次のとおり。

- ・平均値について前年度と比較して割合が高い項目は成果として評価する。
- ・各設問の平均値が3を下回る項目については課題として位置付ける。
- ・評価2と評価1の割合の合計が5%以上の項目については課題として位置付ける。

## 教職員平均評価点 3.18



(3) 各領域についての考察

ア 学校運営【平均評価点：3. 19】

評価項目	考察（上段）及び次年度に向けて（下段）
<p>1) 学校は、教育目標・年度の重点目標を踏まえ、各業務計画に反映しながら計画の作成及び実践をしている。</p> <p>2) 学校は、学年、学科、分掌及び教務、舎務、事務部門の運営において、互いに連携を図った指導（業務運営）に努めている。</p> <p>3) 学校は、諸会議や打合せを計画的・効率的に行っている。</p> <p>4) 学校は、教職員としての職務の重要性を自覚し、日々研鑽して努めるとともに、意欲的・積極的に職責を果たそうとしている。</p> <p>5) 学校は、情報モラルを意識して情報機器等を活用している。</p> <p>6) 学校は、危機管理に努め、安全・安心な学校づくりを行っている。</p> <p>7) 学校は、本校で働く全ての教職員に敬意をもって接し、教職員の協働による組織的な学校運営に努めている。</p> <p>8) 学校は、ワークライフバランスを意識した働き方を推進し、業務改善及び業務分担の平準化に努めている。</p> <p>9) 学校は、個人情報を適正に管理運用をすることができている。</p>	<p>・令和7年度平均評価点 3.19 (令和6年度平均評価点 3.25)</p> <p>・大部分の項目で評価4（十分）、評価3（おおよそ）の合計が90%を超える評価となっている。</p> <p>・設問5「情報モラルを意識した情報機器等の活用」及び設問9「個人情報の適正な管理運用」については、平均値が前年度よりも高まっており地道な取組の成果と捉える。引き続き、職員間の意識が高まるよう啓発を行っていく。</p> <p>①設問8の平均値が2.91となり、ワークライフバランスを意識した働き方についての改善策が必要である。各校務分掌の業務精選及び平準化を図ると同時に人員配置を調整する。また、時間外在校等時間に関しては、依然、超過勤務の実態があることから、日頃からの計画的な業務推進と業務の平衡化や定時退勤日の確実な履行により改善を図る。</p> <p>・設問3の評価2と評価1の割合の合計は10%であり課題として捉える。計画的・効率的な会議の運営のため、議題の精選及び資料の事前効率的な会議運営に努め、連絡事項についてはICT機器を活用して情報共有の在り方を工夫する。</p>

イ 教育活動【平均評価点：3. 13】

評価項目	考察（上段）及び次年度に向けて（下段）
<p>10) 学校は、親和的、共感的に生徒の実態を理解し、生徒の障がいや発達段階、生徒・保護者のニーズを踏まえた指導をしている。</p> <p>11) 学校は、言葉掛けや態度など、生徒の実態や心情を考慮し、望ましい手本となるように努めている。</p> <p>12) 学校は、挨拶やマナー、服装、時間などに気を付け、節度ある態度や決まりを守り指導している。</p> <p>13) 学校は、生徒の人間関係の把握をきめ細かにいき、いじめの未然防止に努めている。</p> <p>14) 学校は、生徒の余暇活動が充実するような取り組みや支援を行っている。</p> <p>15) 学校は、給食の安全・栄養を考慮した提供や、その指導が行われている。</p>	<p>・令和7年度平均評価点 3.24 (令和6年度平均評価点 3.24)</p> <p>・6項目中5項目の、評価4（十分）、評価3（おおよそ）の合計が90%を超える評価となっている。</p> <p>・設問11「生徒の実態や真情を考慮し、手本となる言葉掛けや態度」の項目では、評価4（十分）、評価3（おおよそ）の割合の合計が88.0%ではあるものの、評価2と評価1の割合の合計が11%となり課題でもある。</p> <p>②設問11・12に関して、生徒の手本となるよう努めることについて課題があった。北海道美深高等養護学校職員行動指針に沿い、TPOに合わせた服装や言葉遣い、言動など、生徒の手本となるよう職員個々が意識を高め、生徒の尊厳を守っていく。</p> <p>③設問10に関して、個々の発達段階及び障がい特性の一層の共通理解と指導と評価の一体について課題となっている。アセスメントに関する研修や生徒理解のための面談の充実により課題解決を図る。</p> <p>・いじめの未然防止については、これまで同様に発達支持的生徒指導により学校全体で対応するとともに、事案の認知にあたっては、迅速かつ組織的な対応を図る。</p>

エ 保護者や地域との連携【平均評価点：3.23】

評価項目	考察（上段）及び次年度に向けて（下段）
16) 学校は、保護者に学習や生活の様子、学校事務に関することなどを分かりやすく知らせるとともに、家庭での様子の把握に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度平均評価点 3.23 (令和6年度平均評価点 3.37)</li> <li>・4項目中すべてにおいて、評価4（十分）、評価3（おおよそ）の合計が97%を超える評価となっている。</li> </ul>
17) 学校は、地域人材や資源を活用し、地域と連携した教育活動に取り組んでいる。	
18) 学校は、様々なツールを活用し、保護者や地域等へ向け、積極的に教育活動の情報発信を行っている。	
19) 学校は、保護者と協力しながら教育活動を行っている。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、ホームページをリニューアルするとともに、学校公式X（エックス）の開設により、各学科及び学年の積極的な情報発信に努めている。12月現在において、リニューアル後のホームページのアクセス数は30万を超え、X（エックス）のフォロワーは47である。引き続き、教育活動の情報発信に努める。</li> <li>・家庭との連携にあたっては、引き続き、学校・寄宿舎と家庭との連絡を密にする。また、配布文書の電子化を図り、楽メの活用により情報発信の効率化を図る。</li> <li>・今後も学校運営協議会を活用し、地域資源を生かした教育活動の充実を推進する。</li> </ul>

オ 会計・事務【平均評価点 3.23】

評価項目	考察（上段）及び次年度に向けて（下段）
20) 学校は、学校徴収金の管理や事務処理について、会計事務処理要領に則って適切に処理し、金銭事故防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度平均評価点 3.23 (令和6年度平均評価点 3.48)</li> <li>・3項目中すべてにおいて、評価4（十分）、評価3（おおよそ）の合計が94%を超える評価となっている。ただし、設問20・21に関しては、いずれも評価2と評価1の割合の合計が5%となり課題としても捉えられる。</li> </ul>
21) 学校は、事務手続きの手順を理解し、適切に事務処理を行っている。	
22) 学校は、物品の購入や経費を伴う計画等を、組織的・計画的に行っている。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭事故防止と適切な事務処理に関する項目の評価点が高かった。金銭の取扱いにあたっては、複数名での確認のプロセスを経ることや会計簿冊の管理を徹底し、次年度も金銭事故防止への意識を高めて適正な処理に努める。</li> <li>・物品の購入の際は、業務の効率化や適正な予算執行の観点から、急な購入ではなくできるだけ計画的な物品購入に努める。</li> </ul>

カ 研究・研修【令和6年度平均評価点 3.09】

評価項目	考察（上段）及び次年度に向けて（下段）
23) 学校は、専門性向上のため研究・研修に積極的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度平均評価点 3.09 (令和6年度平均評価点 3.33)</li> <li>・全ての項目で評価4（十分）、評価3（おおよそ）の合計が93%を超える評価となっている。ただし、設問24に関しては、評価2と評価1の割合の合計が6%あり、課題としても捉えられる。</li> </ul>
24) 学校は、校内研究に計画的に取り組む、全員参加の研究及び研修を実施している。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、その職責を遂行するために、絶えず研修に努める必要がある。そのため、校内及び校外での研修に積極的に参加するよう、一人一人の研修意識の向上が必要である。個々の</li> </ul>

	<p>研修ニーズは多様でもあるため、個人研修と全体にかかわる研究とのバランスをふまえながらスキルアップを図るようにする。</p> <p>・寄宿舎においては、研修にかかわる分掌部がないことから、研修を担う担当・分掌等について工夫する。</p>
--	--

キ 教育課程・学習指導・進路指導【平均評価点 3.18】

評価項目	考察（上段）及び次年度に向けて（下段）
<p>25) 学校は、学習指導要領に沿い、教科横断的な視点を持ち、生徒の実態に応じて各教科の指導計画を作成している。</p> <p>26) 学校は、生徒の主体的な学びを支える授業改善に取り組んでいる。</p> <p>27) 学校は、実習・現場実習等において、一人一人のニーズを踏まえ、社会生活につながるように工夫をしている。</p> <p>28) 学校は、ICT 機器を積極的に活用しながら授業を行っている。</p> <p>29) 学校は、自立活動の指導を個別の指導計画の基、一人一人の障がいや発達の程度に応じて適切に行っている。</p> <p>30) 学校は、生徒の卒業後の生活を見据え、懇談会や進路だよりを通して、進路に関する適切な情報提供及び進路指導を行っている。</p>	<p>・令和7年度平均評価点 3.18 (令和6年度平均評価点 3.41)</p> <p>・全ての項目で評価4 (十分)、評価3 (おおよそ) の合計が92%を超える評価となっている。</p> <p>・設問28「ICT 機器を積極的に活用した授業実践」については、平均値が前年度よりも高まっており、授業でのICTの積極的な活用による成果と捉えられる。引き続き、ICT 機器の効果的な活用により、生徒への個別最適な学習や対話的な学習の提供に努める。</p> <p>・設問25「教科横断的な視点と生徒の実態に応じた各教科の指導計画作成」に関しては、カリキュラム・マネジメントの意義や、いわゆる“合わせた指導”の効果的な指導について理解を深めることが必要である。</p> <p>・設問26「生徒の主体的な学びを支える授業改善」に関しては、校内研究と連携しながら、授業づくりのPDCAサイクルにより授業改善を進めていく。</p> <p>・設問27「一人一人のニーズを踏まえ社会生活につながる実習・現場実習」に関しては、多様な実態の生徒のキャリア形成と進路実現を見据え、日々の作業学習をはじめ、校内実習及び現場実習の改善・充実を図る。</p> <p>④設問29「一人一人の障がいや発達段階に応じた自立活動の指導」に関して課題がある。自立活動の指導にあたっては、将来の自立と社会参加を見据えた視点であったり、現在の各教科等の下支えとなる視点であったりと、いずれにおいても、生徒一人一人の適切なアセスメントに基づき、自立活動の意義と目的についてあらためて確認する必要がある。</p>

※考察及び次年度に向けての①～④の番号が付いた項目は、次年度の重点事項とする。

## 2 保護者評価

### (1) 実施日

令和7年11月7日～令和7年11月24日

### (2) 対象者

保護者 85 家庭 (提出 37 名 / 提出率 52.1%)

### (3) 結果

ア 保護者：令和7年度平均評価点 3.58 (令和6年度平均評価点 3.55)

(ア) 評価点は次のとおりとした。

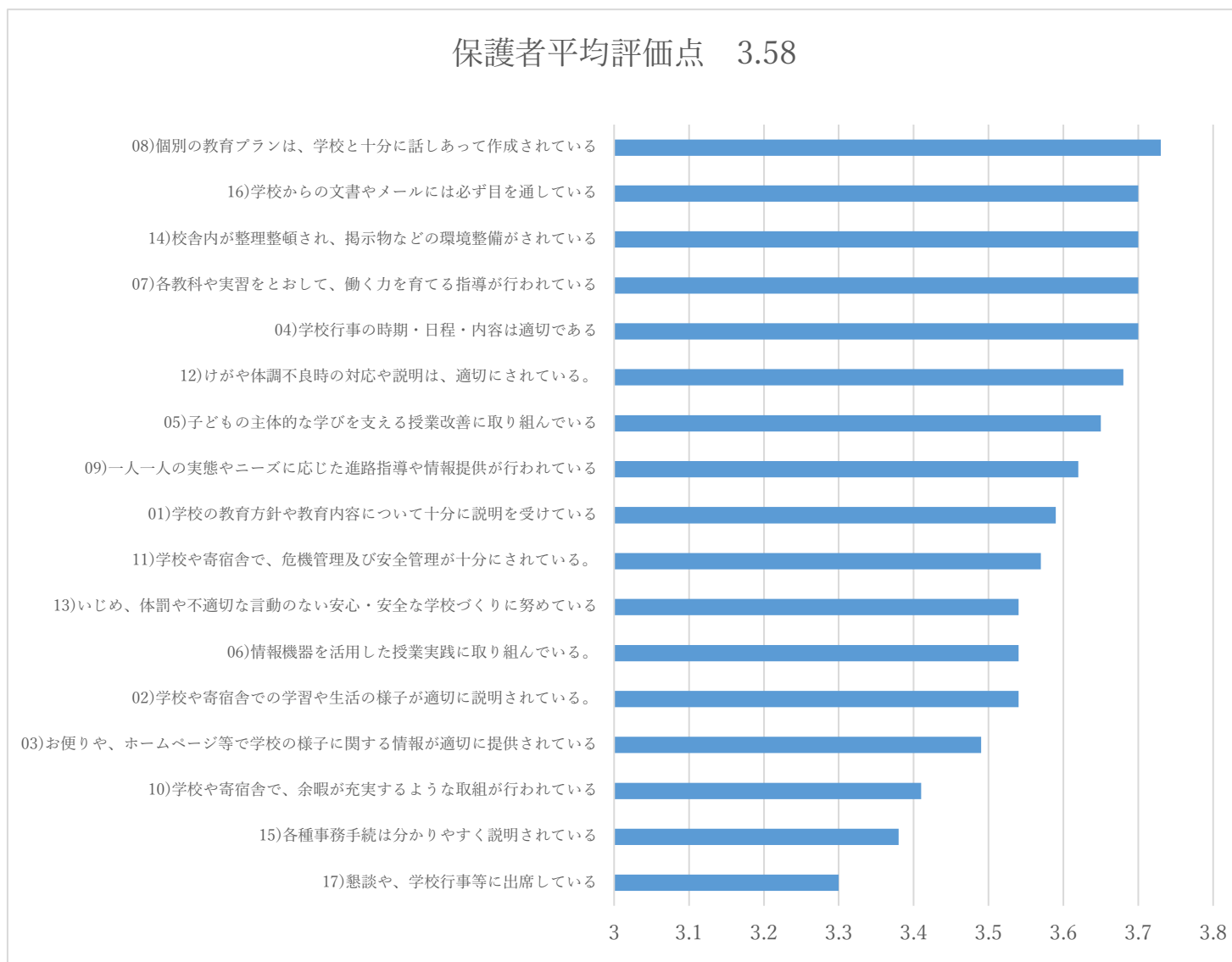
- ・評価4 (できている) ～4点
- ・評価3 (おおむね) ～3点
- ・評価2 (不十分) ～2点
- ・評価1 (まったく) ～1点

(イ) 図2は17の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

(ウ) 評価基準は次のとおり。

- ・平均値について前年度と比較して割合が高い項目は成果として評価する。
- ・各設問の平均値が3を下回る項目については課題として位置付ける。
- ・評価2と評価1の割合の合計が10%以上の項目については課題として位置付ける。

【図2 平均評価点 (保護者)】



(3) 各項目の平均評価点、分析及び次年度に向けて

評価項目	平均評価点
<p>◆学校運営</p> <p>1)学校の教育方針や教育内容について十分に説明を受けている。</p> <p>4)学校行事の時期・日程・内容は適切である。</p> <p>11)学校や寄宿舎で、危機管理及び安全管理が十分にされている。</p> <p>14)校舎内が整理整頓され、掲示物などの環境整備がされている。</p>	<p>令和7年度 3.64</p> <p>(令和6年度 3.58)</p>
<p>◆保護者と学校の連携</p> <p>2)学校や寄宿舎での学習や生活の様子が適切に説明されている。</p> <p>3)お便りや、ホームページ等で学校の様子に関する情報が適切に提供されている。</p> <p>12)けがや体調不良時の対応や説明は、適切にされている。</p> <p>16)学校からの文書やメールには必ず目を通してている。</p>	<p>令和7年度 3.60</p> <p>(令和6年度 3.57)</p>
<p>◆教育課程</p> <p>5)子どもの主体的な学びを支える授業改善に取り組んでいる。</p> <p>6)情報機器を活用した授業実践に取り組んでいる。</p> <p>7)各教科や実習をとおして、働く力を育てる指導が行われている。</p> <p>8)個別の教育プランは、学校と十分に話しあって作成されている。</p> <p>9)一人一人の実態やニーズに応じた進路指導や情報提供が行われている。</p> <p>17)懇談や、学校行事等に出席している。</p>	<p>令和7年度 3.59</p> <p>(令和6年度 3.58)</p>
<p>◆余暇の充実</p> <p>10)学校や寄宿舎で、余暇が充実するような取組が行われている。</p>	<p>令和7年度 3.41</p> <p>(令和6年度 3.41)</p>
<p>◆教育活動</p> <p>13)いじめ、体罰や不適切な言動のない安心・安全な学校づくりに努めている。</p>	<p>令和7年度 3.54</p> <p>(令和6年度 3.49)</p>
<p>◆会計・事務</p> <p>15)各種事務手続は分かりやすく説明されている。</p>	<p>令和7年度 3.38</p> <p>(令和6年度 3.35)</p>
<p>【分析及び次年度に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全 17 項目のうち「評価4 できている」「評価3 おおむね」の割合が、全ての項目で 92%以上と高い評価をいただいた。そのうち、3 項目において「評価4 できている」「評価3 おおむね」の割合が 100%となり、とりわけ高い評価をいただいた。なお、各設問の平均値が 3 を下回る項目はなかった。</li> <li>・平均評価点が 3.85 と、昨年度の 3.55 と比べ若干数値が上がり、各項目においても微増する結果となり、本校の教育活動について一定の高評価をいただけたと思われる。</li> <li>・最も評価点が高かった項目は、設問 8 「個別の教育プランは、学校と十分に話しあって作成されている。」であり、昨年度に続いて最も評価点が高かった。教育課程に関する項目が上位となったのは、個別の指導計画を根拠とした学習や、地域と連携した学習、生徒主体の学習等が評価されたのではないかと推測される。</li> </ul> <p>⑤評価 2 と評価 1 の割合の合計が 10%以上の項目は、設問 9 「一人一人の実態やニーズに応じた進路指導や情報提供が行われている」であり 11%だった。(平均値は 3.18 であり必ずしも低い評価ではなく、学年が上がるにつれて高評価となっている。)引き続き、とくに 1 学年の生徒及び保護者に対して卒業後を見据えた進路指導の仕組みを啓発するとともに、進路指導部と担任との共通理解や担任と保護者との情報共有を密にしていく。</p> <p>進路支援を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の保護者アンケートでは、回収率が 52.1%にとどまってしまった。今後、案内・集約方法について工夫する必要がある。</li> </ul>	

※分析及び次年度に向けての⑤の番号が付いた項目は、次年度の重点事項とする。

### 3 生徒アンケート

#### (1) 対象者

生徒 88名 (提出 72名 / 提出率 81%)

#### (2) 結果及び考察

ア 自分のことを分かってくれる先生がいる。【はい 80.6% / いいえ 2.8% / 分からない 16.7%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「はい」の割合が、昨年度より6%増加</li> <li>・3学年は(昨年度2学年次と比較して)19%増加</li> <li>・2学年は(昨年度1学年次と比較して)5%増加</li> <li>・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)11%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はい」の割合が、全体的に増加している。</li> <li>・「いいえ」については、昨年度からほぼ増減はなく、一定割合がある。</li> <li>・学年、学科、寄宿等において、生徒の適格なアセスメントと共通理解に努め、障がい特性に応じた指導・支援に取り組む。</li> </ul>

イ 先生はどの生徒にも公平に接してくれる。【はい 65.3% / いいえ 8.3% / 分からない 26.4%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「はい」の割合は全体では昨年度と変わらない。</li> <li>・3学年は(昨年度2学年次と比較して)18%増加</li> <li>・2学年は(昨年度1学年次と比較して)3%増加</li> <li>・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)8%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と比べると「はい」の割合がやや増えているが、依然、「いいえ」や「分からない」が一定割合いる状況であり、公平な先生もいれば、不公平だと感じる先生もいるということや、生徒の特性によって配慮していることが不公平と感じている生徒がいる可能性もある。面談をとおして、生徒の納得感を高めたり、職員間での共通理解により、一貫した指導・支援に努める。</li> </ul>

ウ 悩んだり困ったとき誰に相談しますか。【相談することができる 87.5% / 誰にも相談しない 12.5%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「相談できる人がいる」の割合が、98.4%だった。</li> <li>・3学年とも98%以上で、昨年度とほぼ変わらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が、相談することができる人がいるという結果だった。</li> <li>・誰にも相談をしないという生徒が昨年度は各学年1名だったが、今年度は1～3名ずつ増えている。これらの生徒については、日頃から職員から声を掛けたり、面談の機会を充実させたりしながら相談しやすい環境づくりに努める。</li> </ul>

エ 学校に行くのが楽しい。【はい 61.1% / いいえ 9.7% / 分からない 29.2%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「はい」の割合が、全体で(昨年度と比較して)7%増加</li> <li>・3学年は(昨年度2学年次と比較して)22%増加</li> <li>・2学年は(昨年度1学年次と比較して)増減なし</li> <li>・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)15%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はい」の割合は、昨年度と比べて大幅に増加している。とくに3学年の増加が顕著である。</li> <li>・「楽しい」と感じている生徒が大幅に増加している。引き続き、生徒主体の学習・余暇活動を充実させ、自己肯定感情が高まり、日々の学校・寄宿舎生活が楽しいと思えるような学校となるように努める。</li> </ul>

オ 先生はわかりやすい授業をしてくれる。【はい 73.6% / いいえ 6.9% / 分からない 19.4%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「はい」の割合が、全体で(昨年度と比較して)6%減少</li> <li>・3学年は(昨年度2学年次と比較して)3%増加</li> <li>・2学年は(昨年度1学年次と比較して)1%増加</li> <li>・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)15%減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体では、「はい」の割合が減少、「いいえ」の割合が増加傾向にある。</li> <li>・多様な生徒の実態や学習特性を踏まえ、ICT機器を効果的に活用しながら、校内研究等の実践を生かし、生徒が主体的に学習に取り組み、生徒個々が「分かった、できた、やってみよう」と思うことができる授業改善に取り組む。</li> </ul>

カ 寄宿舎の生活が楽しい。【はい 66.7% / いいえ 12.5% / 分からない 20.8%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「はい」の割合が(昨年度と比較して)5%増加</li> <li>・3学年は(昨年度2学年次と比較して)14%増加</li> <li>・2学年は(昨年度1学年次と比較して)4%増加</li> <li>・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)10%減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はい」の割合は、全体では増加し、「いいえ」の割合が減少している。</li> <li>・学年が上がる中で「はい」の割合が高くなる傾向がある。</li> <li>・引き続き、日々の生活や余暇の充実に取り組み、魅力ある寄宿舎づくりに努める。</li> </ul>